

聖書: ヨシュア記 3 章

説教題: 先を進まれる主に従って

日 時: 2010年4月25日

今日の章でヨシュアとイスラエルはついにヨルダン川の川岸までやって来ます。エジプトの苦役から救い出された後、本来はまっすぐに約束の地に入ることができたはずでした。しかし先祖たちの不信仰により、イスラエルは 40 年間の荒野の生活を強いられました。それは不信の民が一人また一人と死んで行く、長くつらい旅でした。しかし主の真実と憐れみによって、イスラエルの民はついに乳と蜜の流れる地のすぐ手前まで到達します。イスラエルは大指導者モーセを失って大変な危機的状況 にありましたが、主は「わたしは、モーセとともにいたように、あなたとともにいよう。」とヨシュア に仰って下さいました。また 2 章では、約束の地を探って来た二人の斥候がこの上ない喜ばしいニュースを携えて帰って来ました。主の導きと励ましを頂いて、彼らはついにここまで来たのです。そして三日間とどまります。しかし彼らの目の前には川があります。向こう側に約束の地が見えるとは言 え、行く手をヨルダン川が遮っています。果たしてここを渡って行くことは可能なのでしょうか。ヨルダン川は通常は深さが一メートル程度の浅瀬もあり、渡ることはそう困難ではなかったようです。しかしこの時は後に見ますように、それとは違う状況にありました。また強靱な体力を持つ男だけでなく、女、子供もいます。その他、家畜や生活に必要な荷物もあります。果たして自分たちはどのようにしてこの障害を乗り越えて、あちら側に渡って行くことができるのでしょうか。

そんな中、まず民に求められた二つのことを最初に見て行きたいと思います。その一つ目は、3 節にありますように、主の契約の箱を見、その箱が出発したら、そのうしろを進まなければならないということです。ご存知の通り、主の契約の箱は十戒の 2 枚の板が収められた主の臨在を象徴する箱です。モーセはかつて、この契約の箱が出発する時には「主よ。立ち上がってください。」と言ひ、これがとどまる時には「主よ。お帰りください。」と言っていました。今回もこの主の契約の箱が先立ってイスラエルを導いて下さるのです。イスラエルの民はそれをしっかり見て、その後に従わなくてはならない。

4 節もそのための指示と思われまふ。2000 キュビトとは約 900 メートルになります。なぜこの距離をとるのでしょうか。ある人は主の契約の箱は神聖なものだからと考えるかもしれません。しかし 4 節の理由の部分に「それは、あなたがたの行くべき道を知るためである。」とあります。すなわち皆がこれを良く見ることができるためです。反対から言えばあまりこの箱に近づくと、イスラエルの民みなが見つけることはできなくなる。この行進は主が先立って進まれるものです。その主のご臨在の象徴である契約の箱をしっかり見つめ、主に信頼を置くために、この 900 メートルという間隔が必要とされたのでしょう。

二つ目に彼らに求められたことは、5 節にある通り、身をきよめることです。以前、出エジプト記 19 章で、十戒を授けられる前にも、同じく身をきよめるようにとイスラエルは言われました。具体的に彼らに求められたことは、自分たちの着物を洗うこと、および性的関係を慎むことです。着物を洗うというのは、単に外面的なことではなく、そのことを通して内的きよめを求めることでもあったでしょう。自分たちの内にある不安や不信仰、高ぶりを取り除き、主に全く信頼する者へと整えて頂く。一方の性的関係を慎むと

いうのは、通常は良い事柄であっても、この特別な時には主に専ら心に向けて、全面的に献身するためでしょう。こうした中、主はヨシュアに 7 節のように語られます。「主はヨシュアに仰せられた。『きょうから、わたしはイスラエル全体の見ている前で、あなたを大いなる者としよう。それは、わたしがモーセとともにいたように、あなたとともにいることを、彼らが知るためである。』」ここに今回のヨルダン川渡河の主のみわざの目的の一つは、ヨシュアの霊的權威の確立であったことを私たちは知ります。これから取り組む多くの課題を思う時、全イスラエルをまとめ、主の祝福へ導くためには強力なリーダーシップが必要です。これまでその大役を果たして来たモーセはあまりにも偉大な器でしたが、約束の地へ導く指導者もそれに勝るとも劣らない信頼を民から勝ち取らなければなりません。しかしその霊的權威はヨシュアが自分で得るものではなく、主が与えて下さるものです。彼に求められていることは、ただ主が命じられる御心に勇気をもって従うことです。ヨシュアは主の御心を取り次ぎます。10 節:「ヨシュアは言った。『生ける神があなたがたのうちにおられ、あなたがたの前から、カナン人、ヘテ人、ヒビ人、ペリジ人、ギルガシ人、エモリ人、エブス人を、必ず追い払われることを、次のことで知らなければならない。』」約束の地カナンではただ楽園が彼らを待っているわけではありません。前に 12 人の斥候が遣わされた時の報告にあったように、背の高い巨人も住んでいます。その彼らに打ち勝って行かなければなりません。一つの民だけでなく、7 つの民に勝たなくてはなりません。しかし主が力強い御腕をもって必ず彼らを追い払って下さる。そのことは次のことによって証明されるとヨシュアは言います。13 節:「全地の主である主の箱をかつぐ祭司たちの足の裏が、ヨルダン川の水の中にとどまると、ヨルダン川の水は、上から流れ下って来る水がせきとめられ、せきをなして立つようになる。」

ここで初めて目の前のヨルダン川を渡る具体的な方法が示されました。一言で言えば、あの出エジプトの時に葦の海が真っ二つに分かれた時と同じことが再現される!彼らが親たちから聞いてきたかつての不思議が、今、同じようにして自分たちの目の前で起こるのです。もし目の前のたけり狂うヨルダン川を主がそのように治めることができるなら、約束の地に住む手強い 7 つの民をも、主は追い払い、自分たちをそこに導き入れて下さることができるでしょう。

こうしてイスラエルは主の御言葉に従い、川に向かって出発します。14 節:「民がヨルダン川を渡るために、天幕を発ったとき、契約の箱をかつぐ祭司たちは民の先頭にいた。」この姿こそ、今日の章で私たちが一番心に焼き付けたい姿です。非常に異様な行進です。先頭には主の箱をかついだ祭司たちがいます。そのうしろにイスラエルの民が続いています。傍から見たら、愚かしい姿以外の何ものでもありません。そのようにして川に向かってどうするのか。そんな行進をして道が開かれるのでしょうか。しかし彼らは人間の知恵によってこれを行なっているのではないのです。これはただ、先を進まれる主を見つめて、従う信仰の行進なのです。

その時、驚くべき不思議がそこに生じます。契約の箱をかつぐ祭司たちの足が水に浸った時、どうなったでしょう。16 節:「上から流れ下る水はつつ立って、はるかかなたのツアレタンのそばにある町 アダムのところで、せきをなして立ち、アラバの海、すなわち塩の海のほうに流れ下る水は完全にせきとめられた。」ヨルダン川はその瞬間、パニック状態にでも陥ったかのように、彼らの前から退いて行きます。上流から流れ下る水は、はるかかなたの町アダムで壁のように突っ立ってせきをなしています。そして下る水はそのま

ま一気に塩の海、すなわち死海の方に流れて行きました。その結果、彼らの目の前は干上がり、川底が姿を現しています！

詩篇 114 篇 5 節に、こういう歌があります。「海よ。なぜ、おまえは逃げ去るのか。ヨルダン川よ。なぜ、さかさに流れるのか。」これは葦の海の事件とヨルダン川の事件に言及しているものと思われませんが、それによりますと、ヨルダン川はこの時、逆さに流れたのです。祭司たちが足を付けたその所から、川の水は真っ二つに分かれて、そこから上流の水は反対に流れて行ってアダムという町まで遡って行ったのです。

そして 15 節の注釈にも心を留めるべきでしょう。15 節の後半に「ヨルダン川は刈り入れの間中、岸いっぱいにあふれるのだが」と記されています。ヘルモン山からの雪解け水でこの時のヨルダン川の水は岸いっぱい溢れ返っていました。洪水の時のように、ゴーゴーと音を立てながら、ものすごい勢いで流れていました。しかしそのたけり狂っているヨルダン川が、彼らの目の前で真っ二つに分かれたのです。そして一方の水は逆流し、一方の水は流れ下って、目の前には彼らが渡ることで乾いた地が現れたのです。この注釈は私たちに對してどんなメッセージを語っているでしょう。これはこの時はたまたま季節的にこういう状況だったと告げるためでしょうか。むしろ主はヨルダン川を最も渡るに困難な時期に、イスラエルをここに導かれたのではないのでしょうか。それはこの渡河がただ主の恵みと力によることを示すためです。私たちが自分の無力さを最も感じる時、これは自分には全く不可能だと判断せざるを得ない状況。主はそのような状況でご自身の栄光を現されるのです。イスラエルはこうしてエリコに面するところを渡って行きます。最後の 17 節:「主の契約の箱をかつぐ祭司たちがヨルダン川の真ん中のかわいた地にしっかりと立つうちに、イスラエル全体は、かわいた地を通り、ついに民はすべてヨルダン川を渡り終わった。」

私たちの信仰生活はまさに 14 節のようであるべきです。素晴らしい事実は、様々な取り組みにおいて主が私たちの先を進んで下さるといふこと。私たちはその主を前に見て、従って行けば良い。奇跡が起こってからついて行こうと腰を上げるのではなく、主に信頼し、主が道を開いて下さると信頼して、世から見れば愚かしいとも思われる行進をして行くのです。

私たちの行く先にも様々な困難があるでしょう。まさに越えなければならないヨルダン川があるかもしれません。そこはものすごい洪水の状態かもしれません。しかし主はそういう中で、ご自身のみわざを現されます。私たちは先を進まれる主を常に前に見るべきです。そしてその後に従って行く。川がゴーゴーと音を立てながら行く手を遮っている時に、先を進まれる主に従う信仰の行進をして行く。その時に岸一杯にあふれるヨルダン川の川底が現れるという不思議が起きるのです。困難な状況はこの主のみわざが現れるための舞台です。そして私たちも今日の章のイスラエルのように、目の前のヨルダン川をただ主の恵みと力によって乗り越え、主が備えている祝福の地へ渡って行くことができるのです。